

# 事業報告 — C

(水産基盤整備事業費 (空港港湾課令達))

## 17. アラメ藻場造成事業 藻場造成新技術開発

渡辺秀洋・氏 良介

### 目的

荒廃が叫ばれる鳥取県の藻場の回復・保全を図ることを目的として、アラメ種苗移植等による藻場造成手法を開発・マニュアル化することにより各種公共事業との連携を図り、効果的に藻場造成事業を実施する。本年度はアラメ移植後の経過調査を実施した。

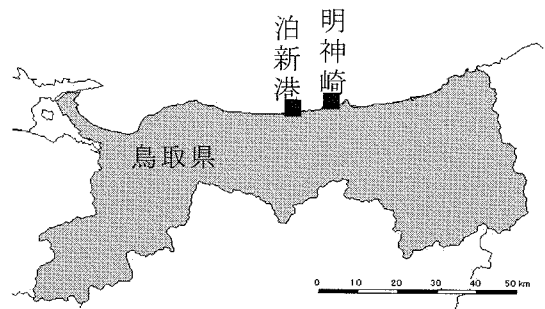


図1 調査地区

### 材料と方法

本年度は本県で最も古い年代（昭和60年）に移植された泊漁港（東伯郡湯梨浜町）と明神崎（鳥取市青谷町）の2地区について調査を行った。調査はアラメの分布の広がりを把握するもので、スキューバ潜水による水中ビデオ撮影により行った。調査日は泊新港が10月14日、明神崎が10月21日に実施した。

### 結果と考察

（1）泊漁港：図2に示したとおり、平成12年までに移植地点から西側の新港防波堤沿いに広範囲に分布が確認されていたが、今回の調査でさらに防波堤の先端付近まで分布が拡大していることが明らかになった。

（2）明神崎：昭和60年当時の移植ヶ所がはっきりしないため拡大経路は不明であるが、本地区のアラメも群落化しており、岩礁の潮干帯下部から水深4～5m付近の岩礁部には濃密な分布が確認された。

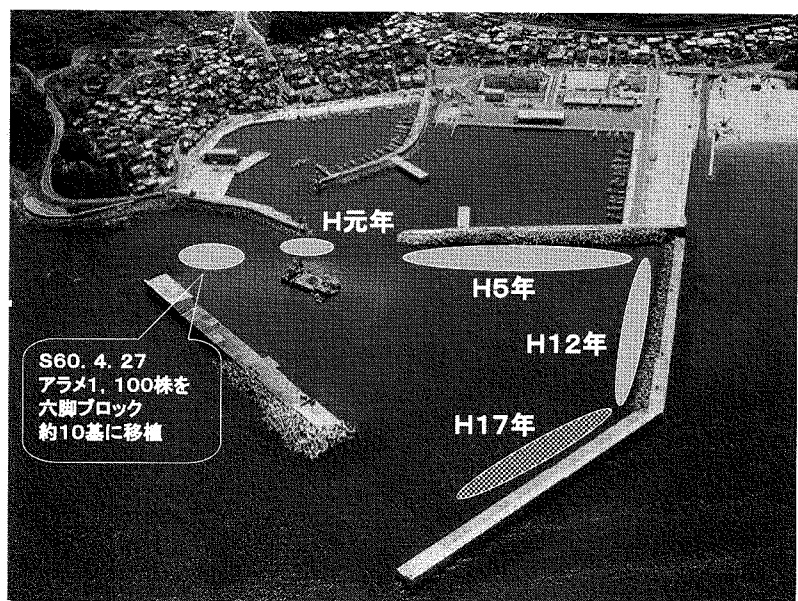


図2 泊漁港のアラメ分布域の拡大状況

### 残された課題

アラメの移植事業は試験的な移植も合わせると県内11地区で実施されている。これらの地区全について経過を観察し、必要であれば移植手法の改善や移植補充を行っていく必要がある。